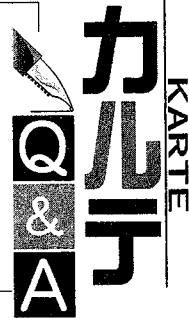


左人さし指の第1関節に腫れができ、中指側には水膨れのようなものもできています。小指も少し腫れています。いずれも力を入れると痛みを感じ、腫れない右手人さし指も同様です。日常生活に支障はありませんが、治療法を教えてください。(71歳、女性)



ヘバーデン結節

痛み強ければ注射や手術も

指の第1関節に腫れや痛みがあり、水膨れのようなものが出てくる状況から、手指に生じる変形性関節症、別名ヘバーデン結節が最も考えられます。

ヘバーデン結節は、手指の第1関節の軟骨がすり減り、

骨(指の先端の骨)の基部(関節側)が背側へ突出する骨棘(骨の棘)が生じていることがよくあります。症状とエックス線写真でヘバーデン結節は診断できますが、よく似た指関節の痛みに関節リウマチや膠原病による関節炎が

同じ病態です。治療法ですが、手術をしない保存的療法として、まず力仕事を控えることによる局所の安静と保温が大切です。テープングや消炎鎮痛剤の外用剤も併用されます。急性期の強い痛みがある場合、ステロ

場合は手術治療も考慮されます。

症状が長引き、痛みが強いケースなどは、他疾患との区別も重要なので整形外科専門医での受診をお勧めします。(兵庫県整形外科医会、広瀬哲司 宝塚市、ひろせ整形外科クリニック)

腫れや痛み、曲げにくさが生じたもので、加齢による症状です。関節の腫れ、屈曲変形、背側の突出変形が特徴で、水膨れのようなものは粘液嚢腫といえます。

エックス線写真で見ると、関節の隙間が狭くなっていることや関節面の骨破壊、末節あり、これらは全身疾患などで見分けも重要です。ヘバーデン結節の原因は不明です。手指をよく使う人によく、40代以降の女性によく見られるなどの特徴があります。なお、手指の第2関節の変形性関節症をブシャール結節と呼び、ヘバーデン結節と

イド剤の関節内注射も有効です。粘液嚢腫も痛みが強い場合、注射器で液を吸引する穿刺治療を行います。針でつぶす人がよくおられますが感染の恐れもあり、やめてください。保存的治療で痛みが改善しなかったり、変形が強くて日常生活に支障があったりする